

いう批判を受けることは考
えられます。また、心を説
明する段階として、分子・
遺伝子・ニューロンなどが
考えられますが、これらの
方法では心の解明は無理だ
とする人もいます

また、心が

システム的に
解明されると
すれば、人の
個性も一般化
されてしまう
のではないか
という危惧も
当然ある。心
の本質は、普

遍性を持つと
同時に個も持
っているんで
す。心が解明

されれば、逆

に人の個性と

いうものがは

つきりするか

もしれません

よ

最終的に心を解明するこ
とはできるのだろうか。「一

歩一歩積み重ねていけば可
能だと考えます。私は心を

もつ機械も将来的にはでき
るだろうと思います。ただ

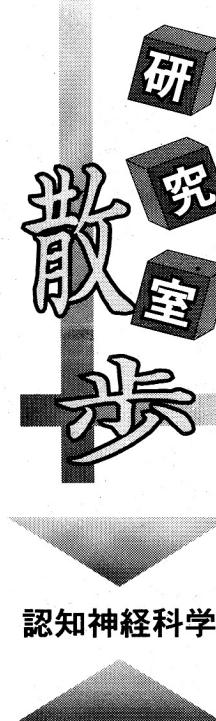
研究すればするほど謎が深
まっていくのも事実なんで

す」

科学で心を解明する

酒井 邦嘉 助教授

認知神経科学



教養学部生命・認知科学
科は、生命を分子レベルから個体レベルまで統一して階層的に捉えるため、一九九七年に新しく発足した学科である。今回の研究室散歩では、同学科に所属される酒井邦嘉助教授の研究室を訪ねた。

酒井助教授の専門は、心の働きから解明しようとする認知脳科学である。酒井が納得できるサイクロンスという形で示せるよう

フィといった手法を用い、脳が生みだす普遍文法の仕組みを探っている。

「心」という主観的な問題はこれまで心の解明のできない道筋で、大眾の学説に合わない現象は無視されてきました。最近になって技術の発達に伴い、外から心の一部が見えるようになったんです。主観的な心を脑の働きから解明しようなったんです。主観的な心

う語った。

しかし、心という領域を科学で扱ってしまうことに對し、違和感を感じるところもある。「心の脳科学は始まつたばかりなので、一般的の批判を受けるほど定着しません。でも皆さん

が心に求めている水準は非

常に高いので、未熟なモデル

では心と認められないとい

うことになります。大切なのは現象であつて、それを解く手段に分野は関係ありません。堀田先生のものとでは生物の研究ができました。自分としては生物的なことも物理的なことも解こうとするもので

す。大切なのは現象であつて、それを解く手段に分野

は物理の分野も進路として

考え始めたんです。しかし

物理学科の堀田先生の話を

聞きに行ったら、そんなこ

とはどうでもよくなりまし

た。サイエンスは解きたい

問題を解こうとするもので

す。大切なのは現象であつて、それを解く手段に分野

は物理の分野も進路として